

研修会報告

2021年6月12日

文責：宮坂智充

研修会テーマ「CLSI基準の最新情報を学ぶ」

開催日時 2021年6月11日（金） 18:00～20:00

会場 Web研修会

司会 東北医科薬科大学 宮坂智充

生涯教育点数 20点

参加者 会員参加者会員：32名（講師、司会、実務委員を含む）非会員：2名（講師）

18:00～18:15 講演 1

「宮城県臨床検査技師会微生物部門精度管理の考え方」

宮城県臨床検査技師会 微生物部門 部門長 宮坂智充 技師

18:15～19:10 講演 2

「CLSI M100 および M60 の概要とこれまでとの相違点（仮）」

ベックマン・コールター株式会社 高相 道忠 先生

19:10～20:00 講演 3

「嫌気性菌・抗酸菌検査における CLSI 基準の最新情報（仮）」

極東製薬工業株式会社 酒井 静香 先生

20:00 終了

内容

一般細菌検査の CLSI 基準は毎年改定されており、薬剤感受性検査の標準的な方法や判定基準について記載されているだけでなく、見逃してはならない耐性菌についても検出方法や判定基準がアップデートされている。しかしながら、各施設が CLSI ドキュメントを毎年購入し、その内容を読み解き、かつ日常業務に反映させていくことは現実的にはかなり難しい。そこで臨床検査技師会としてその部分をフォローし、会員各施設に最新情報を提供することにより検査室のレベルアップに資すること目的として本研修会を実施した。本研修会は、ベックマン・コールター株式会社ならびに極東製薬工業株式会社のご厚意により、各社で購入した CLSI ドキュメントの内容を紹介して頂いた。一般細菌検査では、尿検体から分離された菌の感受性結果に対する“^”の扱いや、*Staphylococcus* 属（特に *S. aureus* Complex）の報告のあり方やブレイクポイントについて等、昨年より変更となった点を学んだ。日常検査において扱う機会が多い細菌を中心に情報を提供いただいた。嫌気性菌の検査では、微量液体希釈法の対象が *B. fragilis* group から、*Bacteroides* spp. および *Parabacteroides* spp. に変更された点や、Imipenem Relebactam のブレイクポイントが

追加された点について学んだ。抗酸菌感受性検査では、結核菌群や MAC 、 *M. kansasii* に対して微量液体希釈法におけるブレイクポイントが追加された点等について学んだ。